

情報連絡員報告総括表（令和5年3月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況						
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化				
製 造 業	食料品	4			2	1	1	3	1		1	3		1	2	1		4		1	3		1	3		1	2	1				
	繊維工業	1	1	1		2	1	3				3			3			3		1	2			2	1		2	1				
	木材・木製品			1		1				1			1			1		1				1		1				1				
	紙・紙加工品		1	1		1	1	2			1		1			2		2				2		2				2				
	印刷		1			1		1				1				1		1			1			1			1					
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品		2	1		3		2	1		1	1	1		2	1		3			3			3			3					
	鉄鋼・金属			1			1		1			1				1		1				1		1				1				
	一般機器		1	2	1	1	1	3				3			1	2		2	1		2	1		2	1		1	2				
	電気機器		1			1			1			1			1			1			1			1			1					
	輸送機器		1		1				1			1				1		1			1			1			1					
その他																																
	小計	5	8	7	4	11	5	14	5	1	3	14	3	1	9	10		19	1	2	13	5	1	17	2	1	11	8				
非 製 造 業	卸売業		2			2		2				2			1	1		2		X					2			1	1			
	小売業	2	2	2	1	5		3	3			4	2		3	3		3	3						5	1		4	2			
	商店街		1				1	1					1			1			1						1			1				
	サービス業	2	2	1	X	X	X		5			5			3	2		4	1						5			3	2			
	建設業	1	2	1					1	3		1	2	1	1	2	1	1	3							4			1	3		
	運輸業			1								1			1				1				1					1				1
	その他		1									1			1			1				1						1			1	
	小計	5	10	5				7	13		1	15	4	1	10	9	1	13	6					19	1	1	13	6				
	合計	10	18	12	5	18	6	21	18	1	4	29	7	2	19	19	1	32	7	2	13	5	1	36	3	2	24	14				

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和4年3月～令和5年3月)

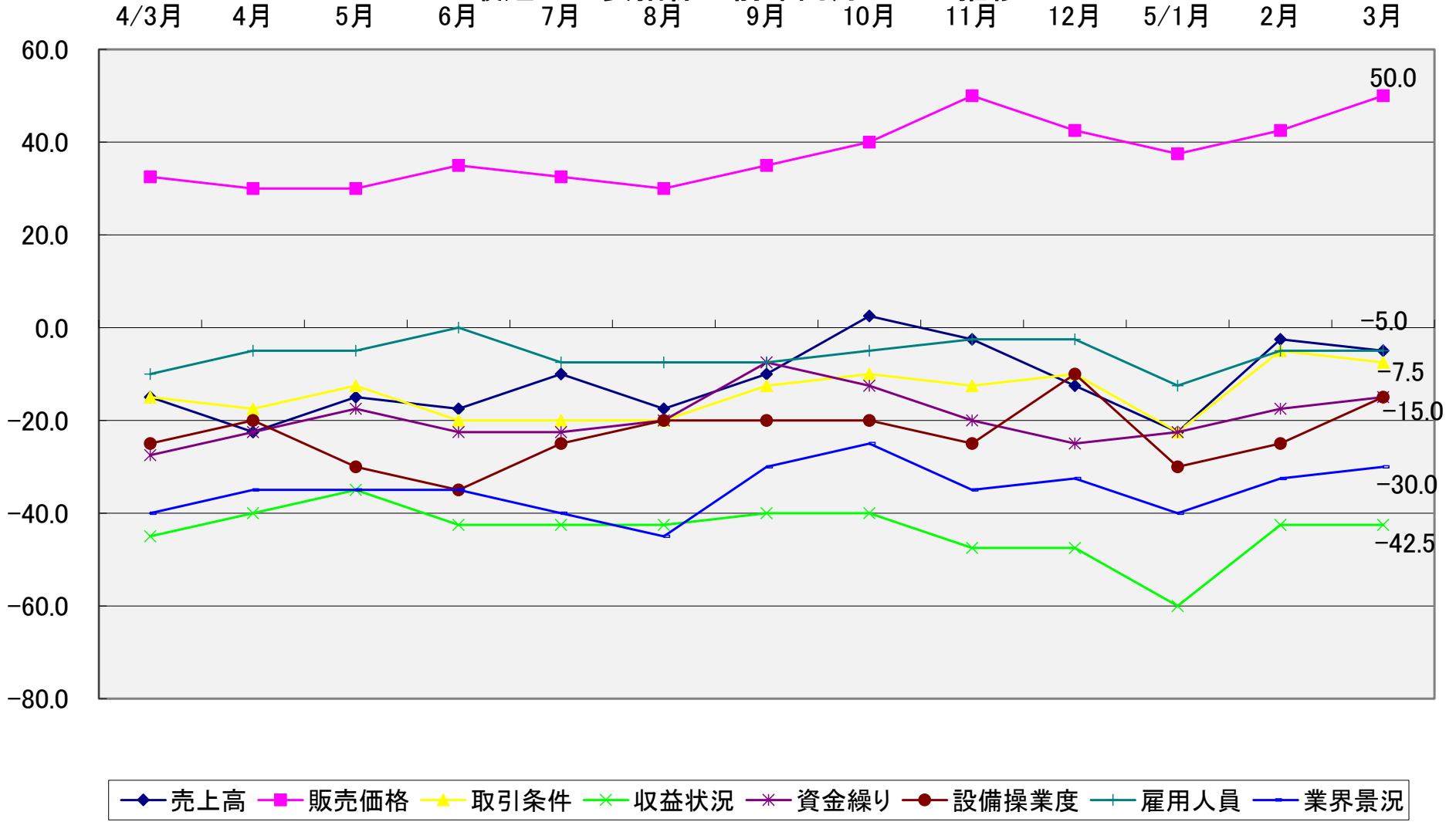
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	4/3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5/1月	2月	3月	増減
売上高	-15.0	-22.5	-15.0	-17.5	-10.0	-17.5	-10.0	2.5	-2.5	-12.5	-22.5	-2.5	-5.0	-2.5
販売価格	32.5	30.0	30.0	35.0	32.5	30.0	35.0	40.0	50.0	42.5	37.5	42.5	50.0	7.5
取引条件	-15.0	-17.5	-12.5	-20.0	-20.0	-20.0	-12.5	-10.0	-12.5	-10.0	-22.5	-5.0	-7.5	-2.5
収益状況	-45.0	-40.0	-35.0	-42.5	-42.5	-42.5	-40.0	-40.0	-47.5	-47.5	-60.0	-42.5	-42.5	0.0
資金繰り	-27.5	-22.5	-17.5	-22.5	-22.5	-20.0	-7.5	-12.5	-20.0	-25.0	-22.5	-17.5	-15.0	2.5
設備操業度	-25.0	-20.0	-30.0	-35.0	-25.0	-20.0	-20.0	-20.0	-25.0	-10.0	-30.0	-25.0	-15.0	10.0
雇用人員	-10.0	-5.0	-5.0	0.0	-7.5	-7.5	-7.5	-5.0	-2.5	-2.5	-12.5	-5.0	-5.0	0.0
業界景況	-40.0	-35.0	-35.0	-35.0	-40.0	-45.0	-30.0	-25.0	-35.0	-32.5	-40.0	-32.5	-30.0	2.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年3月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いている。今年度は雨が多く、葉菜類を中心に初期生育が遅れていたが、その後の天候により順調に生育しており、例年並みの収穫が得られ、ほぼ例年並みの漬け込みが行われている。年明け以降もほぼ例年並みの生産で推移している。また、販売状況においてもコロナウイルス規制の緩和や旅行者の増加などにより、お土産物の需要がかなり回復してきており、コロナ前の状況に戻ってきている。一方で、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により製造コストに影響が出ている。
		醤油味噌	政府の4月以降の輸入小麦の売り渡し価格が、本来13%の上昇幅が5%の値上げで落ち着いた。世界的な穀物の受給バランスが不安定の中で、急激な価格上昇は事業者を疲弊させるため、政府の対応に安堵している。マスク着用も自己判断となり、飲食観光関係の需要も回復してきた。春闘で大手企業の大幅な賃上げが報道で取り上げられているが、中小企業は依然として厳しく賃上げの動きは見られない。令和5年度の農水省緊急対策支援事業補助金（輸出補助金）に応募した。海外の展示会への出展を機に輸出に取り組む組合員の増加を期待している。
		製麺	9月から始まった三重県産小麦を使用した製品開発を7事業者から18品目のアイテムを開発していただき、取引先へのアピール活動としてラーメン産業展、組合まつり、スーパーマーケットトレードショーに出展した。また、既存の取引先にも製品について試食等を行い、今後、製品を取扱ってもらえるよう商談を行った。三重県産小麦の需要拡大に取組んでいく。
	繊維工業	衣料縫製	エネルギー価格高騰の影響で経費は増大となり、利益を圧迫している。早急なエネルギー対策をしてもらいたい。
		テントシート	相次ぐ原材料の仕入価格の値上げにより、現行の製品価格の維持が困難となってきており、価格改定をせざるを得ない状況となってきている。
	木材・木製品	木材	電気料金等のコスト増が経営に深刻な影響を与えてきている。
		木材チップ	原材料価格が高止まりしているため、原材料確保が課題である。
	紙・紙加工品	古紙	3月の仕入量：段ボール・約93±5%、新聞、チラシ・約86±6%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約92±8%である。例年通りの36協定締結と60時間以上の残業割り増し賃金50%増しとコロナ時期の3年前比較で5%以上の給与増額をするが、4月以降にV字回復と大幅な収益改善は当業界に期待できない様子である。しかし、円安により製品原紙の輸出の動きが見られ大都市観光地のインバウンド波及効果感もあるようで、早夏の熱波予測と昇給後の内需景気に期待したい。巨額累積された赤字国債含みの政府予算の早期執行は良いものの、近い将来にその付けが中小零細企業や個人にも回ってくる事は必須で、サステナブルな直接個人バラまきと社会全体にお金が回り、反映される仕組みを消費税で行う方が未来が明るいように思える。ユーラシア大陸の戦争や共産圏との紛争が、我が身自国の近未来に成らない様に、社会制度を守る倫理観とバランス感覚と適度に従わせる強制力と同じく法制化と古紙持去り行為の撲滅と合わせて立法化を強く希望している。2024年の物流人手不足にIT・DX化と人の優しさで貴重な労働資源を更に大切に効率良く活用したい。
	印刷	印刷	年度末の繁忙期で、需要は他の月と比べて格段に増加した。しかしながら、官公庁をはじめ多くの印刷物は、年度内納品厳守のものが多く新年度の始まりは厳しい業況である。
	窯業・土石製品	伊賀焼	緩やかに業況が回復しているように感じるものの、この先、原料の仕入や燃料の値上げによる影響に頭を悩ませている。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は、2月と同様全体的に減少傾向にある。自動車業界の部品調達遅れからラインの停止等があり、減少傾向が続いている。建築関連部品及びガス関連部品は横ばいの状態であった。また、半導体関連は3月に入っても減少傾向にあり、夏場までこのような状況が続くものと思われる。原材料の高騰、エネルギー価格の高騰（ガス、重油、電力料）が続き、それによる収益の圧迫で経営面では厳しい状況が続いている。	
一般機器	四日市	各企業により濃淡があるが総じて需要、業績は停滞気味である。これは半導体不足やウクライナ紛争の長期化による仕入価格、電気代、燃料費の上昇や自動車関連が未だ低調なことが理由である。大企業の賃上げが大きく報道されているが、中小企業は賃上げ分も含めた取引価格への転嫁は進めづらく、苦しい立場となっている。	
	津市	決算期の原因であるのか、各社で生産調整があり受注は低迷している。2~3月については、製造部門の残業はほぼない感じとなった。材料価格の上昇分については価格転嫁できるが、電気や運送費の上昇分については製品単価計算を小数点第2位まで設定しているので、1銭（1円の100分の1）値上げするだけでも取引先からの根拠資料の提出要請があり膨大な資料を作成する労力がかかることもあり、値上げ交渉は厳しい状況である。4月になって一気に受注が戻る事はないので、コロナ感染症が発生した時期と変わらない景況に思える。	

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年3月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
		伊勢	3月も2月と同じ状況が続いている。受注が低調で先行きの見通しは変わらず不透明である。自動車関連の落ち込みは大きく、設備投資も押さえ込まれている。販売価格は上がっているが、仕入価格も値上がりしているため、売上高は減少し、収益状況は悪い。
	電気機器	鳥羽	組合員企業の中で、設備投資が順調に動いており、今後の活躍に期待している。3月全体の受注発注は横ばいで推移している。年度始めの動向に期待している。
	輸送機器	鈴鹿	メーカーからの当初の内示数が多かったため、派遣社員を増員して前倒しで生産準備していたが、実際の納入指示数はそれほどでもなく、多くの在庫を抱えることになってしまった。4月以降の計画数も低調なものが多く、増員した社員への仕事の割り当てに苦慮している。
小売業		青果	野菜前半：春物の入荷が増えてきたが、一部干ばつの影響で遅れ気味である。キャベツの入荷は順調で価格も安定している。レタス、ブロッコリー、ほうれん草の入荷が増え、価格も下がってきた。 野菜後半：きゅうり、ナスの花菜類は生育が進み、三重県のなばな、愛知県産、香川県産のブロッコリーは手頃な価格となっている。旬を迎えている新玉葱は静岡県、愛知県、熊本県の各産地から入荷しており、苦味が少なく、サラダで生の味を楽しんでもらいたい。ナスもお買い得になっている。 果物前半：中晩柑のイヨカン、はっさく、デコポンの入荷が増えている。県内産のいちごも順調に入荷している。愛媛県、福岡県産のキウイの出荷も今月いっぱいの見込みで、味も良く値上がりぎみである。 果物後半：イチゴは順調に入荷し、価格も安くなってきたが、味も少し落ちてきた。青森県産のりんごは順調に入荷している。県内産や和歌山県産のデコポンの入荷が増えている。美味しくなり価格もやや安くなってきた。
		自転車	少子化の影響で今年も中学校の新入学生徒が減少する中、各ショップに1~2月に予約を受けた商品を3月上旬には納品を終えた様子である。今年の傾向として物価高騰のあおりも受けてか、3月になってもまだ来店していないお客様があり、大型店・チェーン店等を回り、他者と比較しながら購入する方が多く見られた。売れ筋としては低価格品(3万~5万円)を求めて来店した方がほとんどで、やはり後半になる程高額商品は売れないようである。中学校卒業と同時に高校進学に通うための自転車点検、整備(JSマーク保険加入)にみえるユーザーが今年も多く感じられた。令和5年4月から全ての自転車利用者に対し、乗車用ヘルメット着用の努力義務が課され、問い合わせが各店に来ている。
		電器	レジャーやビジネスにおいて人の動きが活発になり、コロナ前に戻ってきたように思う。それに伴い、家庭内や仕事先においても家電製品の購入も増えてきたように思う。今までのように手に入れたい商品が入荷しない、メーカーの製造が追いつかない等、問題だった商品の流通においても若干日数がかかる場合もあるものの、ほとんどの商品が入荷するようになった。各種の支援金や補助金が有効に活用できているのも追い風だと思う。
		石油	3月29日の朝のニュースでEU（ヨーロッパ連合）は2035年までにハイブリッド車を含めたエンジン車の新車販売を全面禁止する方針を転換し、環境に良い合成燃料で走る車の販売は引き続き認めると発表した。EUの執行機関である欧州委員会とドイツ政府は25日、水素と二酸化炭素からつくられる合成燃料を使用する場合に限り、2035年以降もエンジン車の新車販売を容認することで合意したと発表した。EUでは、脱炭素社会に向けて、2035年までにガソリンエンジン等の内燃機関を搭載した新車販売を禁止することで合意していたが、フォルクスワーゲンなど多くの自動車メーカーを抱えるドイツが異議を唱えていた。今回の合意を受けて、ドイツの運輸・デジタル相は手ごろな価格の車の選択肢を維持することの重要性を強調した。石油販売業界にとっては、ガソリンが合成燃料に変わる場合、現在の施設がそのまま利用できる大きなメリットがある。しかし、この合成燃料の開発は途中であり大きな開発資金を要する。ガソリン業界が生き残るためにも、政府の大きな支援を要するところである。
		スポーツ	3月は学校用品を納入している組合員にとっては多忙な月である。ただ、生徒数の激減により数年前と同じ努力をしても売上が上がらない状態である。それに限られた枠の中で、組合員同士の競争が激しくなっている。
	商店街	熊野市	マスク着用の緩和等も含め、感染に対する意識が徐々に薄くなり、観光客をはじめ地元客も動き出してきた。観光需要はコロナ禍前の売上に戻った事業者の話もよく聞くようになり、今後への期待が高まってきている。ただ、飲食関係は歓送迎会等の団体予約は以前の状況にはなく、まだまだ厳しい状況かと感じる。

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年3月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
サービス業	旅館	「おいでよ！みえ旅クーポン（12月20日～3月24日）」の上乗せ配布の効果により、冷え込んでいた予約も急回復して春休みでもあることから、各地とも賑わっていた。対前年比は130～140%、2019年同月比は70～80%程度であった。一部の報道ではインバウンドも回復してどこもコロナ以前に戻ったかのような記事が出ているようであるが、これは東京都内、大阪市内等と限定的であって、地方はまだまだ苦しい状況にある。特に4月の予約の低調には早急な対策が必要である。
	警備	例年のとおり、年度末で受注が増加して売上増になった。
建設業	内装工事業	3月分は、年度末ということもあり、前年同月比でプラスとなった。コロナや材料費等の高騰を受け、物価高もあり予測は困難を極めたが、プラスという流れで、次年度も良い方向にいくよう、期待している。
	水道工事業 (亀山)	亀山市の委託事業については、前年比で減少している。しかし、量水器の取替えについては、年間の取替数量が決まっているので、予算通りの実施であった。漏水修理については、前年より減少している。今年度も事故なく、無事に業務委託は完了した。
運輸業	トラック	軽油価格は、ほぼ横ばいで推移したものの、依然高止まり状況が続いており、経営を圧迫する大きな要因となっている。電子デバイス部門は、キオクシアによる生産調整や需要減などが影響して先月に引き続き減少し、関連する輸送についても減少した。自動車関連については、トヨタ自動車・ホンダ技研とも国内生産を増やしたため、関連する輸送も増加した。スーパー小売については、相次ぐ日用品や食品の値上げにより、消費者の節約志向が強くなったことから、先月に引き続き減少し関連する輸送も減少している。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	ようやく人が外出するようになり、飲食店等の動きも活発になってきた。来訪者を迎える準備が整ってきた。良い商品作りに邁進していく。
紙・紙加工品	衣料縫製	エネルギー価格高騰対策の補助金の継続支援をしてほしい。
一般機器	四日市	コロナ対策の緩和やインバウンド需要で経済が上向く兆しとなることが期待されるが、工業製品の需要につながるかは不明である。物価や光熱費、さらに人件費の増大も見込まれる。今後の状況を注視しながら、きめ細やかな支援をお願いしたい。
小売業	スポーツ	学校の事務からの注文は3月中の納期が多い。予算が余り、その消化のためや予定していたがようやく注文できるといった注文が多いが、3月納品が不可能な商品は購入してもらえないので、商売的にはもったいないことである。
サービス業	旅館	4月と5月のゴールデンウィークの予約も低調であり、ゼロゼロ融資の返済も始まってきて苦しい資金繰りが続いている現状である。早急に需要喚起策を国へ要望すると共に、県には地域間競争も視野に入れて集客に繋がる対策をお願いしたい。